

募集要項

参加費

①会場参加

社会人 16,000円、学生(会員校) 7,000円、学生(一般校) 9,000円
※会場参加の参加費には宿泊・食事代・資料代、消費税を含みます

②Zoomを用いたオンライン参加

社会人 7,000円、学生(会員校) 2,000円、学生(一般校) 3,000円
※オンライン参加の参加費には資料代、消費税を含みます
※情報交換会にはご参加いただけません

募集について

募集開始 2024年6月28日(金) 募集締切 2024年10月15日(火)

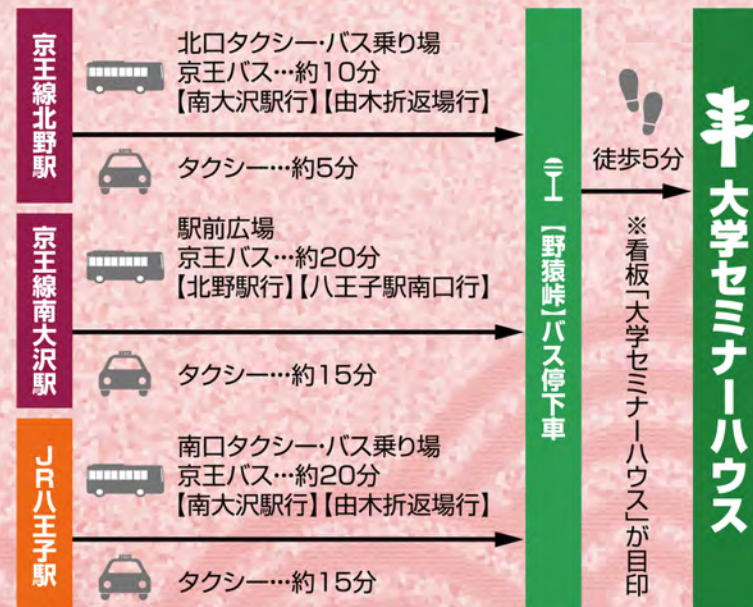
応募方法 「大学セミナーハウスHP申込フォーム」よりお申込みください

<https://iush.jp/seminar/2024/04/581/>

古田武彦記念古代史セミナーご案内ページ→



◆アクセス



お問合せ

公益財団法人大学セミナーハウス セミナー事業部
Tel: 042-676-8512 (直) Fax: 042-676-1220
Email: seminar@seminarhouse.or.jp
ホームページ: <https://iush.jp>

古田武彦記念

古代史セミナー2024

「倭国から日本国へ

～東アジア外交の視点から」

開催日時 2024年11月9日(土)～10日(日)

開催形式 会場参加とZoomを用いたオンライン参加の
同時双方向型ハイブリッドセミナー

対象 古代史に関心のある方ならどなたでも

開催場所 (会場) 公益財団法人大学セミナーハウス
東京都八王子市下柚木1987-1
(オンライン) Zoomミーティングルーム

主催 公益財団法人大学セミナーハウス

共催 多元的古代研究会 / 東海古代研究会 / 東京古田会 / 古田史学の会

 大学セミナーハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE

古田武彦記念古代史セミナー2024

「論理的、科学的、客観的に史実に迫ろう」

「古田武彦記念古代史セミナー」は、今回が7回目になります。近年のテーマは、卑弥呼の時代（3世紀）、倭の五王の時代（5世紀）、「日出づる処の天子」の時代（7世紀）と続き、今回は「倭国から日本国へ」をテーマにしました。今回は、前回と同じテーマ「倭国から日本国へ」を東アジア外交の視点から掘り下げてみようと考えました。

古代史学においては「史実」の解明が基本であり、そのための作業即ち「証明」は論理的、客観的、科学的であり、当然のことながらevidence-basedでなければなりません。「史実」には、「When」「Where」「Who」「What」「Why」「How」などの要素が含まれますが、最初の4つは客観的情報であり、論理的、科学的かつ十分な説得力を持つ証明によって確立されなければなりません。まず客観的に「史実」を確定し、それを各自の歴史観に基づいて解釈したり評価したりすべきです。屢々「歴史観」が「史実」に先行する議論が行なわれているのは何としたことでしょうか。典型的な例として、「魏志倭人伝に「邪馬壹国」と記されている国」が九州にあったことがいまだに「史実」と認められていないのは何故か、その原因を冷静に見極める必要があります。

当然のことながら、議論の前提は客観的でなければなりません。客観性のない前提から出発する議論には、その前提を認める者しか関心を示さないからです。客観性のある前提から出発して、論理的、科学的で誰もが理解出来る議論の結果として「史実」に迫ることが期待されます。

今回のセミナーでは、東アジア外交の視点から「倭国」と「日本国」に焦点を合わせることで、7～8世紀の真実の歴史に迫りたいと思います。

セミナーは、『天智朝と東アジア—唐の支配から律令国家へ』（NHK出版 2015）で知られる中村修也先生の特別講演をお聴きした上で、古田先生の古代史学の研究方法と研究成果を再確認しながら、倭国から日本国への移行に関するevidence-based historyについて建設的な議論が盛り上がることを期待しています。そのために、今回も講演とパネルディスカッション及び質疑応答を組み合わせた構成にしました。

このセミナーは、研究者のみならず、古代史に関心を持つ全ての人を歓迎します。このセミナーが、若い人々が真実の古代を覗く窓になれば幸いです。

このセミナーは、大学セミナーハウスと多元的古代研究会、東海古代研究会、東京古田会及び古田史学の会が共同で開催します。

実行委員長 荻上 紘一



実行委員長 荻上 紘一

◇委員◇ 大越 邦生
大墨 伸明
橋高 修
谷川 清隆
西坂 久和
畑田 寿一
富川ケイ子
和田 昌美

11月9日(土)

11:30～ 受付・昼食
13:00～ 開会
13:10～ 特別講演(中村修也先生)・ディスカッション
16:20～ 「古田武彦記念古代史セミナー2024」がめざすもの(大墨伸明委員)
17:10～ 一般講演①
17:55～ 写真撮影
18:30～ 夕食・情報交換会(会場参加者のみ)

11月10日(日)

9:00～ 基調講演(谷川清隆委員)
10:40～ 一般講演②、一般講演③
12:05～ 昼食
13:00～ 一般講演④、一般講演⑤
14:35～ パネルディスカッション
16:35～ 閉会・解散

特別講演

唐の羈縻政策と白村江の戦い後の日本

なかむら しゅうや
中村 修也

660年に百済は唐・新羅連合軍によって滅亡させられ、663年に百済救援に向いた日本軍は朝鮮半島の白村江の戦いに敗れた。しかし、唐は日本には進出せず平和裏に日本は律令を導入して、中央集権国家を築いていった。このように私たちは日本史学習において教わる。だが、これは戦争の原則からは遠く離れた考えである。敗戦国が戦勝国に何も要求されないということがあるであろうか。もし、そのようなことがあれば、戦勝国は戦っただけ無駄であったことになる。そのような目で日本書紀を読みなおすと、いろいろと矛盾点が見つけられる。そして、敗戦国日本を背負った天智の苦悩も見え隠れする。天智称制、朝鮮式山城の設置、近江遷都等、これまでとは異なる考え方でアプローチしていく必要があるのではないのでしょうか。



中村修也先生プロフィール

1959年、和歌山県生まれ。1989年、筑波大学歴史・人類学研究科博士課程単位取得終了。2001年、博士(文学)1989年京都市歴史資料館勤務。1994年文教大学教育学部勤務。現在に至る。専攻は日韓古代史、茶の湯の歴史。

主な著書は、『偽りの大化改新』（講談社、2006年）、『白村江の真実 新羅王・金春秋の策略』（吉川弘文館、2010年）、『天智朝と東アジア 唐の支配から律令国家へ』（NHK出版、2015年）、『戦国 茶の湯倶楽部』（大修館書店、2013年）、『千利休 切腹と晩年の真実』（朝日新聞出版、2019年）など。

基調講演

七世紀・日本書紀の巻分類の深化 谷川清隆

一般講演

- ①唐進駐軍の羈縻支配はいつまで続いたか -- 問題提起として -- 新庄宗昭
- ②7世紀から8世紀の列島における倭国から日本国への転換の詳細 阿部周一
- ③天智紀の郭務倭外交の舞台筑紫とその意味するもの 大墨伸明
- ④倭国と日本国 ----- 唐と新羅の史書から 國枝 浩
- ⑤「倭国」から「日本国」へ最初の論点 黒澤正延

パネルディスカッション 中村修也、谷川清隆、大墨伸明、新庄宗昭、阿部周一、國枝浩、黒澤正延、橋高修(司会)

各講演の要旨は

ホームページをご参照ください⇒

<https://iush.jp/seminar/2024/04/581>

